

人物
*
図鑑

クリエイター編 水谷孝次さん

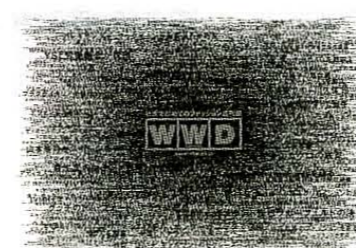
Profile:1951年3月14日生まれ。名古屋市出身。1977年に日本デザインセンターに入社し、1983年水谷事務所設立。1982年東京ADC賞、1984年JAGDA・新人賞、1995年第9回ニューヨークADC国際展・金賞、1996年第15回ワルシャワ国際ポスタービエンナーレ展・金賞など受賞多数。現在はデザイン活動と同時に、笑顔を通じて世の中を幸福にしようという「メリー(Merry)」プロジェクトも行っている

デザイナーや
クリエイティブ・ディレクターに
必要なのは、物を引いて
見られる力(デッサンカ)です



グラフィック・デザイナーとして活躍する水谷さんだが、大学時代は畑違いの工学部に在籍していた。デザイナーになるきっかけは「学生運動の影響もあり、デザインで社会を変えたい、もっと良くしたいと思ったんです。そして人とコミュニケーションをとりながら活動していきたいと。それに大企業に就職して安定するより、自由でありたいと願っていました。それで東京に単身乗り込んだのが始まりでした」と話してくれた。日本デザインセンターを経て、1983年に独立した。バブル全盛期には全日空など大きな仕事が次々と舞い込み、1年間で世界20カ所を回ったこともあったが、「ひたすら消耗する日々嫌気が差し、真剣に仕事の断り方を考えた」ほど心身共に疲れ切ったと言う。90年代からは自分の原点に戻り、社会的作品を手掛け始め、今は笑顔を通じて世の中を幸福にしようというコミュニケーションアート、「メリー」プロジェクトも行っている。ところでデザインのアイデアはいつ浮かぶのだ

ろうか? 「だいたいクライアントとの最初の打ち合わせです。話を聞いて5秒後には浮かびます。(笑)長く考えてもダメだと経験で学びました。WWDなら、ジャーナリスティックな媒体で、文字を非常に大事にしている。それなら、タイポグラフィーでいこう!と即決、紙面で使用した文字を集めて、ヴィジュアルを作りました」。アイデアが浮かんだ後は、相手の考えを上手く引き出し、方向性を確定する。そのとき重要なのが「品性・知性、そして物を引いて見る力(デッサンカ)です。これはグラフィック・デザイナーには不可欠なものです。トム・フォードらのクリエイティブ・ディレクションはこれをもっと高い水準で行ない、冷静にブランド全体を観察できるから、今の成功があると思います」とデザイナーの必須条件を語った。最後に今の若い人へ向けたメッセージを。「失敗を恐れず、どんどん海外へ飛び出し、世界を相手に挑戦して下さい。そして日本発のメッセージを伝えて下さい!」。



右..日本タイポグラフィ協会・ベストワーク賞を受賞した弊社ポスター。
左..笑顔満載のメリーブック5冊。NY・ロンドン・東京他でプロジェクト進行中!